

学校保健にかかわる現状と課題

部長 圓山 文堯

1 学校保健の動向

多くの支部が、県養護教員研究協議会の研究主題「児童生徒の健康管理能力を育成するための養護教諭の支援」を受けて研修に取り組んでいる。

上越地区の糸魚川市教育研究会では、「児童の健康管理能力の育成」を課題として、「中学校区を単位とした取組」「家庭と連携した取組」「学校の意図的な取組」の3点から取り組んでいる。能生中学校区では、能生地域学校保健委員会を結成して、地域ぐるみで「健やかな心と身体をつくるメディアコントロール」に取り組んでいる。木浦小学校では、児童会とPTAの専門部、学校の保健教育部が同じテーマで取組を展開している。

中越地区の長岡市三島郡教育研究協議会・学校保健部会（部長 青柳良一）では、小・中学校が連携を図り、中学校区の児童生徒の健康課題を把握して、義務教育9年間の視点から児童生徒の理解と健康管理能力の育成に努めている。そして、個人研究や実践(テーマは県・支部と同じ)、グループ研修(中学校区単位グループ)、全体研修(研究推進委員が運営)を効率よく回しながら研修を進めている。11月22日の第2回研修会では、長岡市立山本中学校の西片恵美子養護教諭が「生徒の生きる力を育む養護教諭の指導・支援の在り方」を実践発表した。

下越地区の村上南小学校では、平成21年度より新潟県小学校教育研究会から「学校保健」の研究指定を受け、10月14日には研究大会を実施した。「自己の課題をとらえ、健康な心と体づくりに進んで取り組む子どもの育成」を目指し、学校と家庭が連携して取組を進めている。具体的には、「学校では、健康三原則を学校保健の学習を通して、児童が自分の心や体の状態を知り、自分自身の課題を自覚し認識させることを目指す。」「家庭では、児童自身の立てた目標に基づきより良い方法で実践できるように支援してもらおう。」「再度学校で、実践の『振り返り』を行い目標が達成できたかを判断させる。」その後、新たな課題設定、計画、実践へとつなげていくというような「健康な心と体づくりのサイクル」を回すことによって「健康な心と体づくり」の育成を図っている。

2 学校保健の課題

社会環境や生活環境の急激な変化が子どもたちの心身の健康に大きな影響を与えており、性の逸脱行動、肥満などの生活習慣病の兆候などの現代的健康課題に加えて、児童虐待などのメンタルヘルスに関する課題や感染症、アレルギー疾患などの課題が顕在化してきている。

このような児童の健康にかかわる状況を改善するため、「自分で自分の健康管理できる力(ヘルスプロモーション)を身に付ける」ことを目指し、その達成に向けて、関係機関、県学校保健会、家庭及びPTA、地域などと連携し、一体となって取組を推進していく必要がある。